



佐々木 亮 議員

人口減少問題と学校教育に関する件

問（市長） 子どもたちが、自らの生命の尊さを知ることなどの具体的な進め方は

答（教育長） 道徳授業や体験活動を通じて生命の尊さを実感

問（市長） 令和5年度市政執行方針及び教育行政執行方針に人口減少問題への取り組み、学校での推進目標が掲げられていますが、具体的な計画等について質問します。

（1）人口減少問題への取り組みとして、中長期的に計画されている事業はあるのか。

答（市長） （1）人口減少問題の取り組みの一つの子育て支援は、不妊治療費助成や妊娠婦の健診、子ども医療費の助成、産後ケア事業、多様な保育サービスなど充実した支援を実施していますが、さらに、充実・拡大が必要との認識をしています。

（2）昨年度からは、「結婚の希望をかなつ」講座を開催し、結婚の希望をかなつ

れる支援を開始したほか、子どもの包括的な相談支援を行う「こども家庭センター」を令和6年度に整備できるよう検討を進めており、結婚・妊娠・出産から育儿、子育てまで、切れ目のない支援を充実させる所存です。

問（市長） 「自らの生命の尊さを知ること」や「自己肯定感を高めること」などの具体的取り組みは、道徳授業における「がん教育」や「性教育」のほか、体験活動、防災教室等を通じて、生命の尊さを実感させ、理解を深めてまいりたい。

（3）本市の不登校児童・生徒数は令和4年度末139人であり、不登校の対応策は、原因をつきとめ解決策を学校や保護者等と協議することが重要であり、学校だけではなく家庭との連携が必要不可欠です。

学校では、未然防止、初期対応、自立支援を重点とし、児童・生徒の居場所づくり、教育相談の実施、意欲的に学習に臨めるような授業づくりのほか、別室登校やタブレット端末を活用した家庭での学習機会の確保などに取り組んでいます。今後は、タブレット端末を活用し、それぞれの学習進度に応じた授業の実施や、指導者の確保が課題ではありますが、常設の適応指導教室の増設の検討を進めています。



防災教室のようす「上磯小学校」

答（教育長） （2）これまでの教育現場では、一斉授業による一律一様教育が主体でしたが、これからは、「そろえる」教育から「伸ばす」教育、多様性を重視した教育への転換を進めるためにより一層のアカデミックラーニングの推進が必要です。

（4）昨年6月に、大規模中学校の3校において、個別に制服を見直す検討を進めて

問（市長） （2）教育行政執行方針の1に「従来の教育の考え方を見つめ直す必要があるのではないか」とあります、具体的にどのような内容を見直すのか。

また、「自らの生命の尊さを知ること」や「自己肯定感を高めること」、

「人を思いやる気持ちを育てていくこと」とは具体的にどのように進めるのか。

（3）教育行政執行方針の2に不登校の問題や適応指導教室について触っていますが、現状と今後の具体的な計画をお知らせください。

（4）教育行政執行方針の3に「校則や制服の時代にあつたものへの見直しが必要な時期」とありますが、制服の変更に関して、これまでどのような議論があつたか、今後のスケジュール、制服変更に伴う新たな課題をお知らせください。

今後は、最終サンプルの作製・確認、対象児童及び保護者等への周知、販売店との調整などを予定で、また、制服変更に伴う新たな課題等は、現在、統一制服に関する支援策が可能であるかを検討していることと、統一制服とすることへの対象児童、保護者等、学校教育現場の皆さまへの理解を深めていくことが重要であるものと考えています。

具体的には、GIGAスクール構想の推進により、子ども主体の学びを進めるほか、学年横断、教科横断により、その教科の本質の学びに加え、教科の枠組みを超えた実社会に生きる学びに取り組んでまいりたい。

具体的には、GIGAスクール構想の推進により、子ども主体の学びを進めるほか、学年横断、教科横断により、その教科の本質の学びに加え、教科の枠組みを超えた実社会に生きる学びに取り組んでまいりたい。

いることが判明したところです。

このことを踏まえ、昨年9月に、市内各中学校の校長と教育委員会で協議を行ない、ジェンダー平等に関する取り組みを進めるため、制服の見直しをすること、

そのためには、ブレザー化が必要であり、小規模校単独での見直しは、保護者等の経済的側面より困難であること、特認校制度を利用して、学年の途中で転校した場合の経済的負担を考慮すべきであることはないかという結論に至りました。

